

音 楽 5 年 B 組	「曲想を感じ取ろう」	音楽専科 江田 司
----------------	------------	--------------

1. 単元について

(1) 単元設定の理由〔本実践の意義〕

〈研究仮説〉：楽曲〔歌唱曲〕における歌詞の働きに着目し、様々な表現活動を通して言葉と音のかかわりを明らかにするところから、子どもたちに音楽を表現する力の基盤のひとつが育つであろう。

研究仮説実現をもとに考えた本単元設定の理由は次の2点である。

- ①－1 音楽表現上有力な素材の1つが「曲想」把握であることから、教科書教材の比較によって子どもたちに「曲想」の概念を明らかにする。
- ①－2 研究の視点としては、「曲想」のとらえ方が曖昧である現状をふまえ、その学習指導過程を解明した。
- ②－1 「曲想」を構成するさまざまな要素のうち主として歌詞と速度に着目したのは、再表現や創作や比較聴取など具体的な活動を用意できることと、歌詞と速度からのアプローチで子どもたちに音楽表現の基盤が養えると考えたからである。
- ②－2 研究の視点としては、歌詞の文節と旋律を構成する動機（モチーフ）の関係すなわち〔旋律の構造〕を体験的に感じ取らせる方法を解明した。

〔②－1：例〕文部省唱歌《ふるさと》（高野辰之作詞／岡野貞一作曲）

歌詞冒頭は「うさぎ追いかの山」である。これを意味を持つ最小の単位＝文節に分ける。「うさぎ・追いし・かの山」となる。一方、音楽的なフレーズは4分の3拍子／4小節となり「うさぎ追いかの山」を一息で歌うことになるが、部分動機（モチーフ）的にみると文節「うさぎ・追いし・かの山」に対応した区分けができるのである。文節に気をつけて歌うと1つずつの言葉の意味が明瞭に意識されると同時に、そこに付けられたリズムや音の動き、さらには速度にまで意識が向けられる。つまり言葉を文節に区分けして動機的に旋律を見る視点を養うことで、たとえ一息で歌う長いフレーズであっても、意味を感じ取りながら指定された速度記号に沿ってフレーズ全体を変化あるものに表現しようとする態度が育つのではないかと考えたのである。

(2) 単元目標

○曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。

この目標に迫るため、指導の観点として次の3点を設定した。

- ア 歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫する。
- イ 拍の流れやフレーズ、強弱や速度の変化、和声の響きを感じ取って、演奏したり身体表現をしたりする。
- ウ 曲の構成を工夫し、簡単なリズムや旋律をつくって表現する。

2. 単元の流れおよび考察 (全12時間)

No.	【記入例】 5年B組()番 名前()
1	p.4《Believe》(杉本竜一作詞・作曲) 例を出して〇〇なんだと「勇気」そして「自信」をくれる。
2	p.6《こいのぼり》(文部省唱歌) こいのぼりのことを教えてくれる。元気で、楽しい感じ。○
3	p.8《いつでもあの海は》(佐田和夫作詞／長谷部匡俊作曲) 海の感じ、また、波の感じ、カモメの声そんな音が聞こえてくる。○
4	p.10《やさしい風に》(佐田和夫作詞／石折冬樹作曲) 「ふんわりわたげ」のふんわりという部分が好き。○
5	p.14《アリアン》(安西薫日本語訳詞／朝鮮半島民謡) やさしい感じで、とてもゆっくりだからやわらかい気持ちになれる。○
6	p.20《わたり鳥と少年》(土肥武作詞／平吉毅州作曲) 少し悲しい曲で、「さようなら」という部分が繰り返す。○
7	p.22《静かにねむれ》(武井君子作詞／フオスター作曲) やさしい感じで、やわらかい感じ。○
8	p.24《それは地球》(長崎一男作詞／森京太郎作曲) 何かレードのように、はきはき感がある。△
9	p.38《スキーの歌》(文部省唱歌／林柳波作詞／橋本國彦作曲) パレード的で、はきはきとした曲。元気をくれる。△
10	p.42《大空がむかえる朝》(あだちやえ作詞／浦田健次郎作曲) 少しゆったりとしたやさしい感じ。いい歌。○
11	p.43《朝日をあびて》(汐見有里作詞／大熊崇子作曲) ピアノ、フルートなどが使われていて、楽しい感じの曲。そして歌。○
12	p.47《世界がひとつになるまで》(松井五郎作詞／馬飼野康二作曲) やわらかいフワフワした不思議な感じ。クライマックスの部分は大きい。○
13	p.48《明日に向かって》(高田蓮子作詞・作曲) クライマックスの部分が、少しはきはきして元気な感じ。△
14	p.49《大空よ あなたののもとに》(安西薫作詞・長谷部匡俊作曲) mf〜fへ行って、クライマックスがよく分かる。元気な曲で明るい。きれいな歌でいい曲。○
15	p.50《南風にのって》(若松敏作詞・作曲) 明るい歌で、勇気をくれる曲。○
16	p.52《つばさをだいて》(海野洋司作詞／橋本祥路作曲) 元気な曲で、やさしい感じの歌。○

第1次：「しらべる」〔1時間〕

学習内容：歌詞「空」を手がかりに教科書教材で「曲想」を調べる。

《第1時》「曲名入り学習プリント」を使う。*知らない歌が数多くあるので範唱CDを用意。子どもたちが自主的に、授業以外にも担任の協力を得て「朝の会」などで歌詞「空」が共通する16曲を全6回に分けて聴き、感じ取った曲想をプリントに書き表す活動を行った。

〔左表：子どもによる記入例〕

【考察】●抽象→具体～感想が変化
左表を書いた子どもは音楽の授業では主導的である。「曲想」について述べた文章はしっかり書かれているが、音楽的な語彙は少ない。しかし第4次では1つ1つの音程（#、bを含む）やフレーズ運び、速度や音符の長さにまで言及して感想をまとめるまでに変容した。

第2次：「くらべる」〔3時間〕 学習内容：感じ取った「曲想」が書かれた一覧表を使って、16曲それぞれを比較検討・整理する。

《第2～4時》「朝の会」で記入されたプリントを次時の授業までにエクセルで打ち、子どもたちには一覧表を、授業では拡大した模造紙を逐一提示し、共通する雰囲気や気分（曲想）が、歌詞やどのような音楽的な諸要素（リズム・旋律・フレーズ・音色・強弱・速度・和声など）から醸し出されているのかを探った。

〔下表：配布プリント「一覧表」の部分例：11人／35人、3曲／16曲〕

	⑥《わたり鳥と少年》	⑦《静かにねむれ》	⑧《それは地球》
1	鳥が本当にいるみたい。×	暗い曲。○	元気な歌。×
2	静かで悲しそうな曲。○	明るくも暗くもない曲。△	はっきりしている曲。明るい。△
3	別れの曲みたい。×	何とも言えず、やさしい曲。△	リズムからして元気な感じ。×
4	暗く悲しそうな感じがする。○	暗い。△	はじめリズムに乗っている。△
5	暗くて延ばすところがすごく暗い。×	暗いところもあってちょっと明るい。×	「う」や「は」の所をすごく延ばしている。△
6	暗いイメージ。△	静かに眠れがけくさん出てくる。○	明るい！△
7	暗い。△	悲しい。○	明るい。○
8	やさしい。△	ゆっくりな曲。×	明るい。×
9	すごくさみしい声でいい声。△	だんだん眠たくなる声ですごくいい声。○	けっこういい声だった。○
10	暗い。ゆっくり。△	ゆっくり！明るい！！×	明るい！様子が分かる。×
11	悲しい曲だけど少しやさしい。○	さびしい曲だけど楽しいところもある。△	少し速くて楽しい曲。

【考察】●『曲想』の内容を意見の違いや複数の楽曲の対比から具体的に感じ取った

子どもたちは同じ歌詞「空」が含まれている曲でも、テンポや調性、音の高さやフレーズでの「空」の位置によってずいぶん違った印象を受けたようだ。16曲を1曲ずつ聴いて、一言ずつ『曲想』について感じたことを書かせ、それらをすべて2～3曲単位の一覧表にまとめて子どもたちに提示したのであるが、これがなかなか効果的で、例えば《静かにねむれ》では、テンポの遅さと歌詞内容から長調であるにもかかわらず「暗い！」との意見が、「ゆっくり！明るい！！」との意見と対立して出されてい

たのである。他の曲《わたり鳥と少年》ではどうなのかの比較を含めて、ここでは長調・短調の違い以外にテンポ設定と歌詞内容が『曲想』を形成するのに大きく作用していることを学んだのである。また一覧表にして同じ曲を他の子どもがどのように感じたのかを明らかにしていくことで、上表の7番と8番の子どもたちも第4次・最終的な友だちの作品への批評では「“大空”の部分がいい」「リズムが難しい」のように一歩具体的に述べられるようになった。また3番の子どもは「(1番の作品を聴いて)第2小節がすごく聴いてて気持ちがよい」「(12番の作品を聴いて)へ長調を上手使っている。うまくまとまっている。」と具体的な部分を指摘したり、《ビリーブ》で学んだ「へ長調を使うことで歌全体の音程を高く保つことができること」を取り入れながら批評していたのである。

〔12番の子どもの作品〕

→



第3次：「つくる」〔5時間〕 学習内容：「空」を含む12～14文字程度の気持ちが表れた自作詞に曲を付ける。

《第5～9時》自作詞及び作曲作品は一覧表にしてお互いの成果を交流できるようにした。

主教材：「^{そら}空」の言葉を使った自由詞（実際には9～25文字程度の部分詞となった：子どもたちの自作）

補助映像◆NHK教育番組「にほんごであそぼ」①2005年5月30(月)梨花ちゃん／②6月3日(金)コニちゃん・結衣ちゃん・梨花ちゃん／放送分から詩「心よ」(八木重吉, 1893～1927)：録画によるDVD。



●文節から動機（モチーフ）へ～《言葉・動き・音》で表現が効果的！

「空」を含む歌詞を自作させた。40種類ができた。1人で4つも詞作する子どもも現れた。情感豊かで友だちの支持を得た。自由に1つを選ばせ作曲を開始。今度は「空」をキーワードに『曲想』そのものをつくって表現したのである。楽譜化については学級を3～5人程度の小グループに分けた。「自分の力だけでは、とても（作曲）できそうにない」と表明した20名の子どもたちに、「ボランティアで手伝ってあげてもよい」とした15名を、子どもたちの意見を聴きながら教師が配分をした。ボランティアの子どもたちは実に粘り強く最終的には1人1人が作曲にチャレンジできた。

曲を「つくる」方法としては、詞を構成する各文節が音楽の動機となることに着目した。次に活動の流れを紹介する。①詞を文節に分ける。②NHK番組「にほんごであそぼ」の朗読を参考に、各文節を言葉の意味をもとに動作化する。手話的でもよい。③その際テンポを決める。④動作化したものを絵に描き学習カードに記録しておく。⑤手拍子を打ち動作を加えながら言葉にリズムや抑揚を付けていく。⑥友だちや先生の助けを借りて音符化する。⑦清書する。

【考察】●《言葉→動き→音》一連の活動が「まなざしが共鳴する」姿を現出

作曲は内面下の活動である。他者には見えない。しかし自信がないとした子どもが、言葉を音にする前段階で文節ごとに身体の動きや絵で表すことで、補助するボランティアの子どもに友だち（作曲者）が表現しようとしていることが理解（共有）できたのである。あとは1つ1つお互いに「これでいいのか」と確かめ合いながら時間をか

けて作り上げていった。教師のところに来る頃にはほぼ曲全体の輪郭が出来上がり、速度設定を確かめた上で楽譜化の補助を行った。これらの活動の結果、35人の個性豊かな作品が出来上がった。作品の特徴としては、音の流れが文節に対応していること。2～8小節の短い作品であるが変化に富んでいること。抱いているイメージが音の動きとなって訴えかける作品が多いことなどが挙げられる。「教えて欲しいと言われなければ教えなくてもよい」と指示をしてグループを組ませたのであるが、ボランティアを名乗り出た子どもたちは、いくら得意でも自ら作曲することですら難しいものを、友だちの表現したい内容を根気強く見守る姿が見られた。また助けてもらう子どもたちにも「これはこうしたいんだけど？」と真摯に助言を求める（共鳴の）姿があった。

【同じ歌詞を使った作品】

この3人の子どもたち→
はいずれも作曲経験がない。友だちの助力がある。同じ歌詞であるが文節と動機を捉えているのがよくわかる。

【3番の子どもの作品】

不思議な感じがする（本人談）
曲に仕上がっている。 →
かなり自由な作品である。

第4次：「ききあう」〔3時間〕

学習内容：自分の曲に速度記号を入れ全員の曲を2回ずつ歌って聴き合う。感想を一覧表に書いて相互交換する。

《第10～12時》出来上がった作品を「一覧の楽譜」として指導者が清書した。総覧を容易にするためである。①範奏を2回聴いて全員で2回歌う。②自作の感想も含め「友だちの作品に一言お願いします！」プリントに記入。③プリント交換をして互いの意見を交流した。

【考察】●文節から動機（モチーフ）へ～歌唱表現で確認

1時間取って自作への速度記号の記入を行った。続く2時間で全員の作品を歌い批評する活動を設定したために時間設定が幾分窮屈となった。相互批評の内容は具体的であった。【同じ歌詞を使った作品】上例から：「第2小節目がおもしろい。」「十六分音符を使ったからおもしろい。」「音の流れがおもしろい。」「ラ」で終わっているのも何ともいえない。」

3. 成果と課題

【成果】①本実践では「空」をキーワードとしたが、一般的にも1つの言葉に着目しているいろいろな楽曲を比較することで「曲想」の違いを具体的に感じ取ることができるであろう。②言葉（文節）と音（モチーフ）のかかわりを明らかにするところから、音楽的に鋭敏な子どもが育つ。③「曲想」理解を背景に《言葉・動き・音》を一連のものとして捉えることで、本来内面的であった「表現しようとする言葉の意味」が「表出」されてきた。これによって表現の基盤は学習の素材として扱えることが分かった。仮説は検証された。

【課題】①今回は5年生の実践であったが、低学年からの《言葉・動き・音》の積み上げがどのようになるのかを明らかにしなければならない。②「自作詞に作曲」がはたして適当であるのか、今後研鑽を重ねたい。③「動き」と「音」が必ずしも一致していないとの指摘があった。「動き」を「足場」とするのであれば問題はないと考えるが、この辺りの整合性がどの程度まで求めなければならないのか今後明らかにする必要がある。